

寺社札 入門

カタログコレクション

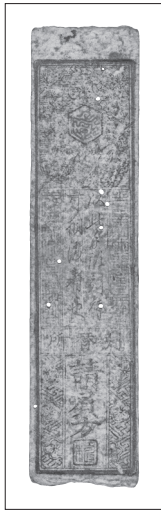
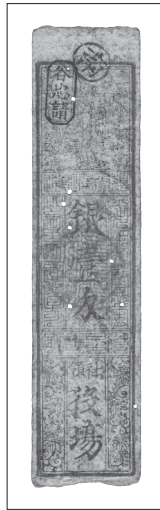
河内・壺井八幡宮札

鳳凰山 神野良英

〔壺井社領役場札〕（人足手形）



〔社領役場札〕（人足手形）



今回（第三回）の「寺社札入門」は初の神社札となる河内の壺井八幡宮札を取り上げさせていただきます。

壺井八幡宮は河内源氏の氏神社であり、札の意匠には源氏の家紋である「笹竜胆」が組み込まれています。

ところで、河内の寺社札といえば、すでに眞蓮寺札をご紹介（本誌二〇二〇年八月号）させていたいただいており、続けての河内札ということにもなるのですが、「古札の世界」における眞蓮寺と壺井八幡宮は河内の寺院と神社を代表するという点において兄弟関係？にあるといつてもよく、ここはやはりセットで取り組むべきところと勝手に判断した次第……

さて、壺井八幡宮札の額面は銀三匁（銀参匁）、銀壹匁、銀五分の三種（明治期の押印による改定札は除外）が知られています。こちらも壹匁札以外はかなり少ないものとなります。

分類については、表面下段の版木の違いで大きく「壺井社領役場札」と「社領役場札」の二種に分けることができ、このうち「壺井社領役

場札」にはいくつかのタイプが見られます。

ちなみに、壺井八幡宮札は眞蓮寺札のように一つの版木を流用（使い回し）しているわけではなく、同じタイプ（額面）でも複数の版木が用いられているのですが（もちろん、流用のももあります）、全体的に現存の少ないものが多く（回収率が高かったのでしょうか）、タイプ別に壹匁札を揃えるだけでも相当な時間が掛かるかもしれません。

壺井社領役場札

○空欄（押印）

裏面四段・空欄

・銀三匁（黄）【500】①

・銀壹匁【80】②

・銀五分【60】③

・銭四十八文（壹匁札に押印）【未見】

空欄部分に引請印の押されるものですが、反対に無印のものは稀少です。

四十八文札（押印）は日銀資料に記載があるのですが、確認できておりません。

○請負方

裏面四段・請負方

・銀三匁（黄）【300】④

・銀壹匁【30】⑤

この「請負方札」にも引請印の押されたもの
がいろいろとあるようです。

○谷与次兵衛

裏面四段・河内小川谷与次兵衛

・銀壹匁【300】⑥

こちらは裏面の体裁の異なるものですが、驚いたことに、前掲の「請負方札」（裏面）の上から「全体を新しい版木で刷り直した紙（薄紙）」を「貼った」ものなのです（複数確認）。

下地（請負方札）に「河内小川谷与治兵衛」印が確認できることから、名前の訂正（治↓次）のための措置だったとも考えられるのですが、何とも大げさな感じがしてしまいます。

○産物會所

裏面四段・産物會所

・銀壹匁【350】⑦

○太田平左衛門

裏面三段・河南西村

同 四段・引替所 太田平左衛門

・銀參匁【未見】（※）

・銀壹匁【150】⑧

※參匁札は未見ですが、版木（額面の差し替え）の存在が確認されています。

○大和屋小兵衛 油屋源右エ門

裏面四段・天満八丁目 大和屋小兵衛

・加納村 油屋源右エ門

・銀壹匁【350】⑨

・代銀當百文（黄）（壹匁札に押印）【400】⑩
壹匁札は白色ですが、百文札（押印）は黄色のようです（複数確認）。

古色が付いたり、色落ちがあったりと、判断の難しいものがあるかもしれません。

社領役場札

○請負方

裏面四段・請負方

・銀壹匁【350】⑪

以上がこれまで通りの入門レベルの分類となりますが、壺井八幡宮札はそれほど品種の多いところでもなく（もったも、ほとんどの寺社札がこの規模以下ですが……）、やはりカタログコレクションだけでは少々さびしく、今回は少しだけ「入門」から離れて、引請印収集の楽しい「空欄札」をいくつか（誌面の許す範囲で）ご紹介させていただきます。

一 引請印の参考例 一

・「油屋萬助」印【80】⑫

・「圓明村油屋平治良」印【80】⑬

・「古市扇屋善兵衛」印【100】⑭

・「山中田村 杵山安右衛門」印【100】⑮

・「石川喜志 問屋九重郎」印【150】⑯

・「壺井村 松山楠治郎」印【150】⑰

・「石川大伴 油屋彦六」印【200】⑱

・「新堂七堂 藤兵衛」印【200】⑲

・「飛鳥村 谷野傳右エ門」印【250】⑳

【 一 】内の数字はごく一般的なものの参考価格（単位一〇〇円前後）となり、【未見】は存在を確認できなかったものですが、元から発行されていない可能性もあるかもしれません。札色は特記なき限り「白」となります。